

無料メールマガジン「がんばれ建設」バックナンバー（一部抜粋）

■ N01989

「8人の共同作業では、なぜ半分の力しか出さないのか」

リンゲルマンというフランスの農学者が行った「綱引き実験」というものがあります。1対1で全力を出して綱引きをしたときの力の単位を100としたとき、各々がもう1人ずつ連れてきて2人対2人で綱引きをやると、1人当たりの発揮できるパワーは、1対1の時の93%になるのだそうです。さらに3人1組で綱引きをやる85%、8人1組で綱引きをやる49%になるそうです。つまり8人1組でやると、1対1のときに対して51%の手抜きをするということです。

よく現場で「現場一丸となって事に当たろう」というのは、勇ましいけれども、実は手抜きを誘発しているということです。ここで、大事なのは、各自に責任を割り当てることです。

「Aさんは、予定どおり生コン車が来るよう手配をして欲しい」「Bさんは、バイブレーターのかけ忘れないようしっかりと見ていて欲しい」「Cさんは、鉄筋かぶりが確保できているか確認して欲しい」のような感じです。

これを、「みんなで力を合わせてコンクリート打設を成功させよう」という指示だと結局誰も責任を持って見ておらず、生コン車が遅れたり、バイブレーターをかけ忘れたり鉄筋かぶりを確保できていない、ということになりがちです。

チームのメンバーにはそれぞれ個性があります。メンバーの違いを認め、各人のユニークさを大切にすることで、チーム力を発揮することができます。

部下がいる方は、ぜひ考えてみてください。

■ N01923

非凡な技術者と平凡な技術者との違いは「足す」ことにある

平凡な技術者が、非凡な技術者になるためにはどうすればよいのでしょうか。それは「足す」ことです。通常行っている仕事のやり方に、何かを「足す」ことが非凡さの第一歩となります。

例えば、電気自動車の開発会社として近年売上を伸ばしているテスラの例を見てみましょう。創業者のイーロン・マスクは「平凡な人が非凡になることを選択するのは可能だと思っています」と、述べています。建設工事の施工においても、「足す」ことを考えるべきでしょう。

・VR、ARを活用した可視化技術の活用

- ・三次元図の作成
- ・3Dプリンターの活用
- ・無人化施工技術
- ・新工法、新技術の活用

そこまでいかななくても、ちょっと「足す」ことも「非凡」な技術者への道です。

・近隣住民に対して「おはようございます」に加えて「今日も寒いですね」と足す

・施工図作成時に、職人がわかりやすいように寸法線を足す

・1級施工管理技士資格を一つだけでなく、もう1種類の1級施工管理技士取得を足す

・部下や協力会社への指示時に、口頭だけの指示に加えてポンチ絵を足す

・打ち合わせ時に笑顔を足す

・情報を得たときに、これを知らせておいた方がよい人を考え、連絡先にその人を足す

少し「足す」ことで、非凡で一流の技術者を目指しましょう。

■ N02033

「内向型」の人が現場で活躍するためのコツとは

内向型の人は、人前で話すことがあると、その3日ほど前から、朝から晩まで緊張してしまうものです。定例会議の場でさえ、上司や顧客に何か訊かれたりすると、答えをちゃんと心得ている場合でも、頭が真っ白になってしまいます。

多くの人は、内向型の人に対してたいてい次のように思っています。

- ・すぐに気後れしたり、不安になったりする
 - ・内気で、無愛想で、チームプレーができない
- などです。しかし、長所もたくさんあります
- ・じっくり考えて最良の結果を残す。
 - ・独りよがりではなく、素直に人の意見を聴く
 - ・準備をしっかりとするので大きなミスをしない

内向型の人が、対人関係をうまく行うコツがあります。たとえば、人前で話すとき、声量を上げようとせず、マイクの音量を上げてもらうのです。また、へんに面白おかしくしゃべろうとしたり、ジョークを言ったりしないほうがよいです。無理していると聞き手に分かってしまうからです。人前で一瞬たりともあがる様子もなく、堂々と話す人であっても、内向型の人は多くいます。このような人は、しっかり準備をして、台本を作り練習をして当日に備えています。そのことで、時には行き当たりばったりで話してしまう外向型の人よりも、人の心をつかむプレゼンテーションをすることもできるのです。

「内向型」の戦略を身につけたいと思います。